



政府統計

報道関係者 各位

令和2年7月31日

【照会先】

政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室

統計管理官 五十里 篤

室長補佐 齋藤 重正（内線 7471）

（担当・内線）

死亡担当 計析第一係（内線 7470）

出生担当 計析第二係（内線 7472）

（代表電話） 03(5253)1111

（直通電話） 03(3595)2812

人口動態統計特殊報告「平成25年～平成29年 人口動態 保健所・市区町村別統計」を公表します

厚生労働省では、このほど、「平成25年～平成29年人口動態保健所・市区町村別統計」の概況を取りまとめましたので公表します。

「人口動態保健所・市区町村別統計」は「人口動態統計」を基に5年分（国勢調査の年を中心に5年）のデータを集計したもので、昭和58年～昭和62年を初回とし、今回で7回目となります。

本概況では、市区町村別の合計特殊出生率と標準化死亡比を算出しています。

【結果のポイント】

○ 出生

- 市区町村別の合計特殊出生率は、沖縄県国頭郡金武町が2.47で最も高く、大阪府豊能郡豊能町が0.84で最も低くなっている（3頁）。

上位3位

順位	都道府県	市区町村	合計特殊出生率
1	沖縄県	国頭郡 金武町	2.47
2	鹿児島県	大島郡 伊仙町	2.46
3	鹿児島県	大島郡 徳之島町	2.40

下位3位

順位	都道府県	市区町村	合計特殊出生率
1	大阪府	豊能郡 豊能町	0.84
2	京都府	京都市 下京区	0.89
3	福岡県	福岡市 中央区	0.91

*合計特殊出生率は、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当するが、本統計においては、5歳階級別の出生数及び女性の日本人人口で算出している。

※詳細は、別添概況をご参照ください。

○ 死亡

- ・ 市区町村別の標準化死亡比は、最も低いのは男性は神奈川県横浜市青葉区、女性は沖縄県中頭郡北中城村となっており、一方、最も高いのは男性は大阪府大阪市西成区、女性は東京都西多摩郡奥多摩町となっている（5頁、6頁）。

上位3位

順位	男			女				
	都道府県	市区町村		標準化死亡比	都道府県	市区町村		標準化死亡比
1	神奈川県	横浜市	青葉区	76.2	沖縄県	中頭郡	北中城村	71.9
2	神奈川県	川崎市	麻生区	77.6	群馬県	利根郡	川場村	72.4
3	大阪府	豊能郡	豊能町	77.7	山口県	熊毛郡	平生町	74.4

下位3位

順位	男			女				
	都道府県	市区町村		標準化死亡比	都道府県	市区町村		標準化死亡比
1	大阪府	大阪市	西成区	189.5	東京都	西多摩郡	奥多摩町	140.4
2	東京都	西多摩郡	奥多摩町	154.3	大阪府	大阪市	西成区	132.0
3	大阪府	大阪市	浪速区	141.5	高知県	安芸郡	東洋町	130.7

*標準化死亡比は、性、地域ごとに「期待死亡数」（その地域の死亡率が全国値と同等であると仮定したときの死亡数）に対する「実際の死亡数」の比を100倍したものであり、年齢構成の違いの影響を除いたものとして死亡状況の比較に用いている。

※詳細は、別添概況をご参照ください。

公表の遅延：複数の都道府県において平成29年以前の人口動態統計に係る調査票の報告漏れ（平成31年3月29日公表）の存在が判明したことに伴い、当該報告漏れ分を反映した人口動態統計のデータ確定後に集計作業を行ったため、公表が遅れたものである。